

特集記事 1

～2025年 千葉県稲門祭 開催～

早稲田大学校友会

2025年 千葉県稲門祭 開催報告

2025年11月30日、東京ベイ幕張ホールにおいて「2025年千葉県稲門祭」が開催されました。県内各地域から多くの校友が参加し、「新たなる飛躍に向けて」をテーマに盛大に開催されました。



第一部 講演会

第一部では、マラソン界の名ランナーである瀬古利彦氏をお迎えし、「心で走る～マラソンのスーパーエース瀬古さんに聞く～」をテーマにご講演いただきました。挑戦を続ける姿勢や心の在り方についての示唆に富むお話が寄せられ、参加者から大きな共感が得られ、また、盛大な拍手が送られました。

第二部 千葉県稲門祭・総長懇談会

続く第二部では、唐松公三支部長による開会の挨拶に始まり、田中愛治総長より大学の近況と今後の展望についてお話がありました。母校と校友会の連携強化に向けた熱意あるメッセージが示されました。

第三部 懇親会

午後5時30分より懇親会が行われ、森山泰充実行委員長の挨拶、来賓紹介の後、千葉県支部名誉顧問・松平武史氏が乾杯の発声を務められました。歓談の時間では、各稲門会同士の交流が深まり、終始温かな雰囲気になりました。懇親会の中では、遅れて到着された熊谷俊人千葉県知事より挨拶があり、参加者から大きな拍手が寄せられました。懇親会には、特別来賓として早稲田大学野球部より小宮山悟監督とドラフト指名を受けた伊藤樹投手・田和廉投手、マネージャーの4名が参加しました。小宮山監督からは千葉県支部への温かなメッセージが寄せられ、学生からは日頃のご声援への御礼とともに、来年2月に予定されている第14回米国遠征のクラウドファンディングへの協力依頼がありました。また、早稲田大学応援部による校歌・応援歌の演奏が披露され、会場が一体となる力強い時間となりました。



最後に、石川義三副実行委員長の挨拶をもって閉会しました。

(白井稲門会 川畑達哉氏記録)

特集記事 1-2

～県稲門祭 瀬古利彦氏講演～

1. 若い世代に知られなくなる「瀬古問題」

- ・最近では若い人に自分が知られていないと笑いを交えて紹介。
- ・『激走！日本縦断 2000km』などで再び注目されつつある。



2. 世界マラソンの現状とケニアの強さ

- ・男子は2時間1分台、女子は2時間10分切りの時代。
- ・ケニアの強さの理由：高地生活、裸足で走る文化、国技がマラソン、ハングリー精神、身体能力の高さ。
- ・日本も鈴木健吾らの活躍で健闘。（非アフリカ勢で初めての2時間5分切り）

3. 日本マラソン躍進の要因

- ・東京五輪が大きな刺激に。
- ・箱根駅伝での成績によっては、大手企業に就職できるという企業支援の構造が選手育成を後押し。
- ・監督たちの、「箱根で勝つ」から「世界で戦えるランナー」への意識改革で、学生の海外挑戦を後押し。
- ・厚底シューズの技術革新。
- ・記録更新への賞金制度も影響。

4. ライバルの存在が選手を強くする

- ・設楽悠太 vs 大迫傑の競り合いが、「自分でもできる」という若手のレベルアップを促した。
- ・瀬古氏自身も宗兄弟の存在が大きな刺激だった。

5. 宗兄弟との対峙と“作戦”

- ・宗兄弟は超人的練習（40km＋40km）。
- ・中村清監督から「お前は関西人で面白いことを言う。だから宗兄弟と喋るな」という独特の作戦を授かる。

6. マラソン選手的生活（練習量の多さ）

- ・365日休みなし、朝夕の2部練習。
- ・瀬古氏は最長90km走。宗兄弟はさらに上に行く120km走。

7. 指導者の重要性（駒澤・大八木監督）

- ・かつてのスパルタ式から、対話重視の近代的指導へ変化。
- ・監督の姿勢がチームの姿勢を決めると強調。

8. 青山学院・原監督の魅力

- ・メディア露出とは裏腹に、実直で選手思いの指導者。（365日寮で生活し、選手と密接に関わる）
- ・「信じているぞ」という言葉で選手を動かす。

9. 中村清監督との衝撃的な出会い

- （アメリカ留学で精神的にも追い詰められ帰国）
- ・「弱い早稲田にしたのは大人の責任だ」と壁に頭を打ちつけるほどの覚悟を見せる監督に心を打たれる。
- ・「砂を食え」など強烈な指導で瀬古氏は3か月で10kg減量。

10. 練習哲学

- （学生たちに伝えたいこと）
- ・「練習で泣け、試合で笑え」
- ・「最後まで諦めるな」
- ・「油断は敗北の母」
- ・“あと5センチ掘れば清水がでるのに、多くの者がそこで止めてしまう”という井戸掘りの例えで「あと少し」の大切さを説く。

11. 監督は“傘をささない”存在

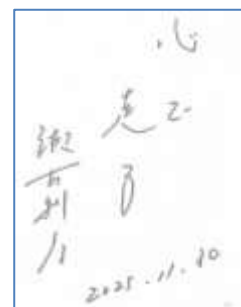
- ・雨でも傘をささず選手を見守る中村監督の姿勢が信頼を生む。

12. 早稲田駅伝の現状と展望

- ・花田監督の改革で環境改善。
- ・2025年箱根駅伝は「上位層が薄い」が、1～4区を粘れば勝機あり。特に千葉県出身の選手に期待。

13. 結び — 「心で走る」

- ・「走るの足ではなく心」競技人生・指導者人生の中心にあった信念として強調。



（白井稲門会 川畑達哉氏記録を基に作成）

特集記事 1-3

～県稲門祭 田中愛治総長講演～

1. はじめに：千葉県支部への謝意

- ・本来は訪問対象年ではなかったが、千葉県支部の熱意ある招聘に応じて来場。
- ・総長任期の最終盤であり、千葉訪問は「おそらく最後」。
- ・地方支部の活動が大学の社会的基盤を支えていると謝意を述べられた。

2. 総長就任から8年間：激動の時代の大学改革

- ・コロナ禍、地政学リスク、大学制度改革など前例のない変化。
- ・「世界と伍して戦う大学」へ向け、研究・教育・国際化の三領域を再構築。
- ・これからの大学は「答えのない問題に挑む主体的人材」を育てるべきと主張。

3. 研究改革：世界で戦う研究力の強化

- ・卓越研究員制度の創設（若手育成）。
- ・研究戦略センター設置（大型資金獲得）。
- ・国際共同研究の推進。
- ・研究設備・デジタル基盤の整備。
- ・その結果、研究水準は非旧帝大で日本最高レベルに到達。

4. 教育改革：主体性と国際性の強化

【主体的学びへの転換】

- ・PBL、少人数授業、学部横断教育の拡大。

【国際教育の拡充】

- ・留学プログラムの拡大。
- ・英語学位プログラムの充実。
- ・海外大学と共同学位・交換留学の拡大。

5. データサイエンス教育の飛躍

- ・2019年導入のデータ科学科目が7,000名 → 18,700名に増加。
- ・日本最大規模のデータサイエンス教育へ。
- ・将来は「全学部生3万5千人がデータ科学の基礎を修得」する大学に。

6. 国際卓越研究大学への挑戦

- ・応募8大学のうち、最終候補6校に残った唯一の私立大学。
- ・残る候補は東大・京大・阪大・名大・東京科学大・早稲田。
- ・慶應は制度上の要件に合致せず応募できなかったと説明。



7. 早慶比較：偏差値ではなく“選ばれる大学力”へ

- ・東洋経済「大学力ランキング」で早稲田は私学トップ（東大に次ぐ2位）。
- ・同時合格者の選択では、2018年は慶應優位 → 2023年は早稲田が大きく逆転。
- ・改革・国際化・研究力・データサイエンス教育などの成果と位置付け。

8. 未来構想 2032・2040・2050年を見据えて

【2032年（創立150周年）】

- ・Vision150に基づく改革加速。

【2040年（18歳人口激減）】

- ・留学生拡大、社会人教育強化、収益基盤確立。

【2050年】

- ・「日本で一番、アジアで一番、人類社会に貢献する大学」を目指す。

9. おわりに：校友への感謝

- ・早稲田の最大の力は校友ネットワークと熱意。
- ・地方稲門会の活動が大学の社会的評価を高める。
- ・「早稲田の未来は校友とともに」と述べて講演を締めくくった。

（白井稲門会 川畑達哉氏記録を基に作成）

特集記事 1-4

～県稲門祭 唐松公三 千葉県支部長 挨拶要旨～

今年の千葉県稲門祭には、県内各地より大変多くの校友の皆さまにご参加いただき、心より御礼申し上げます。また、オンラインでご参加の皆さまにも厚く感謝申し上げます。



加えて、本日は田中愛治総長をはじめ、大学後援会、近隣市区の関係者、さらに応援部の皆さまなど、多くのご来賓にお越しいただき、会場を大いに盛り上げていただきました。

本年の稲門祭は昨年につき、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で開催いたしました。特に今年は、県北・県東地域の皆さま、さらに活動再開を準備中の稲門会からもご参加があり、**県内24のすべての地域稲門会から校友が集う**という、大変意義深い催しとなりました。こうして千葉県内の稲門ネットワークが広く一堂に会したことを、大変うれしく感じております。

また、田中総長には昨年につきご臨席を賜りました。本来であれば今年は千葉県支部への訪問対象年ではありませんでした。総長がご多忙の中をご調整のうえ参加して下さったことは、支部にとって大きな喜びです。田中総長は就任8年目を迎えておられ、任期規定から見ても、総長として千葉を訪問されるのは今回が最後となる可能性があります。後ほど総長からは、大学改革の現状や、2032年の創立150周年、さらには2040年・2050年を見据えた早稲田の未来についてご講演をいただく予定です。

稲門会の原点は、「人と人とのつながり」を広げ、深めていくことにあります。地域稲門会を基盤としつつ、千葉県支部が開催する総会・

行事・分科会などに積極的に参加いただき、多くの校友との交流を楽しんでいただきたいと思います。交流の輪こそが、稲門会の活力の源です。

千葉県支部では現在、各稲門会との連携強化を進めるとともに、県全体を視野に入れた横断的な活動の推進に取り組んでおります。囲碁部会や養老山歩会といった部会活動には毎回60～80名が参加し、年々活さを増しています。今後は部会数の拡充も予定しており、より多くの校友が楽しめる企画づくりを目指します。女性部会も非常に精力的に活動しており、若手校友を中心とした青年部会についても、組織の再編と再始動を進めています。

会場入口ホールには、こうした各部会のPRブースを設置し、活動紹介や参加案内を行っております。また、応援部関連グッズの販売や、早稲田大学野球部のクラウドファンディングのPRも併せて実施しております。懇親会までの時間に、ぜひ足をお運びいただければ幸いです。

最後になりますが、千葉県支部は「千葉と早稲田の双方を盛り上げていく」ことを合言葉に、今後も活動を展開してまいります。そのためには、皆さまお一人おひとりの温かいご支援とご協力が欠かせません。どうかこれからも変わらぬご参加とお力添えをお願い申し上げますとともに、本日の稲門祭を存分に楽しんでいただければ幸いです。



(白井稲門会 川畑達哉氏記録)

特集記事 1-5

～県稲門祭 特別ゲスト～

野球部 小宮山悟監督、
伊藤 樹選手、田和 廉選手が登壇

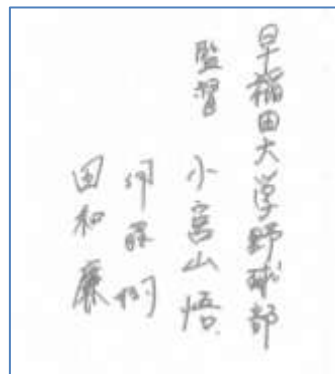


懇親会では、野球部から小宮山監督（芝浦工業大学付属柏高等学校出身）、伊藤 樹 投手（東北楽天ゴールデンイーグルス 2位指名）、田和 廉 投手（読売ジャイアンツ 2位指名）の3名が、懇親会から参加されました。

県稲門祭時は、今春に予定されているアメリカ遠征の応援クラウドファンディングが実施されていたこともあり、アメリカ遠征の意義や、過去の遠征後の成果から、今回もきっと優勝につながれるとユーモア交えたお話をされ、参加者からの激励の拍手で包まれました。

クラウドファンディングも当日に寄付、後日 NET で申し込まれた校友が多くいらしたそうです。
皆さんの母校愛を感じられる「ひと時」でした。

(91年商 椎名)



◆TOPICS 1

<各委員会 活動報告>

総務・渉外委員会

- ① ホームページの立ち上げと関連行事記事掲載
・掲載記事は、県支部の活動、同好会活動、稲門会が合同で実施するイベント等
- ② 支部たよりの発行（2025年8月発行済、2026年2月発行）

千葉県支部のホームページはこちらから →



組織委員会

- ① 県稲門祭の実施
- ② 若手会の始動
 - ・名称変更検討、該当会員所属の稲門会からの幹事選出、各稲門会・複数稲門会開催イベントを共有、企画可能な稲門会を県下に3拠点ほど作る等
- ③ なでしこ会による「千葉県稲門寄席」を2026年2月に開催予定



事業委員会

- ① 2025 大学稲門祭へ千葉県支部ブース出店
- ② 大学稲門祭への役員の派遣
 - ・2025 年は、副本部長 1 名、運営委員を 6 名派遣。
2026 年は副本部長 1 名、運営委員 4 名派遣予定。
- ③ 事業委員会活動報告の HP への寄稿
 - ・事業委員会 1 回、大学稲門祭支部出店関連 3 回、囲碁部会 2 回、麻雀部会 2 回



◆TOPICS 2

<支部活動報告 HP より抜粋>

秋季支部幹事会開催

令和 7 年 9 月 20 日、千葉県秋季支部幹事会が船橋市ホテルフローラ船橋（旧船橋グランドホテル）で県内各支部の会長、幹事長等が集まり開催されました。

唐松支部長の挨拶の後、今回は約 1 時間、報告事項が中心となりました。

三村組織委員長から、11 月 30 日開催の千葉県稲門祭の準備の経過報告と内容確認が行われました。昨年は 6 月開催というハンデもあり、参加人数 400 名を達成できま



せんでしたが、今年は 500 名の達成目標を掲げました。講師は瀬古俊彦さん、来年の箱根駅伝の予想など面白い裏話を聴くことができます。又、田中総長は来年で任期を終えますので、今年で最後の総長懇談会になります。皆様多数の出席をお願いいたします。チケット販売の申し込みデータは増井事務局長から各支部連絡責任者に翌日以降メール添付されます。

次に今年の大学稲門祭の記念品販売報告、早稲田大学への各支部の寄付実績、若手育成費補助についての報告が増井事務局長からありました。

最後に総務渉外委員長、事業委員長、組織委員長から各支部委員会の活動状況の報告がありました。総務渉外委員長からは県支部ホームページのこと、事業委員長か

らは大学稲門祭の千葉県ブースでの特産品販売計画等の報告がありました。

千葉県支部の今後の行事予定の確認があり幹事会は終了し、その後懇親会となりました。約1時間食事をしながら他の支部との交流を図り、最後に県稲門祭の森山実行委員長からご挨拶があり、恒例の校歌斉唱は



1番で締めくくりました。

来年の春季幹事会は海浜幕張のホテルグリーンタワーで4月18日の土曜日を予定しております。

(総務・渉外委員長 高橋孝志)

「2025 稲門祭／千葉県支部出店」 大好評でした！

校友会主催の最大イベントである「2025 稲門祭」は、ホームカミングデー同日の10月19日（日曜）10時～15時早稲田大学本部キャンパスで盛大に催されました。

千葉県支部は例年通りに11号館角の好立地に「千葉県名産販売と千葉県支部活動のP



R」を目的として出店致しました。多くの校友が楽しそうに行き交って、出店の前は終日大賑わいでした。

販売品目はピーナッツ各種（八街産：Qなつつ《倍増》、みそピーナッツ、今回から新たに殻付きゆで落花生おまさり、花咲くピーナッツ2種を追加）とサクサクしょうゆ（野田産）、各稲門会の多くの方々にご来店ご購入頂きました。

おかげさまで盛況、14時前に完売出来ました。ご協力ありがとうございました。

今年も活気ある千葉県支部の姿を多くの校友に認識して頂いたと思います。

なお当日販売や会計担当として頑張ったのは、印西、佐倉、白井、千葉、習志野、野田、船橋、八千代、茂原長生の各稲門会の方々です。

来年はより多くの稲門会の方々の応援ご参加を期待しております。



(事業委員長 森山泰充)

第18回千葉県囲碁大会を10月5 日に開催、白井稲門会チームが優勝

第18回となる稲門会千葉県支部囲碁大会は10月5日午後12時半から千葉駅至近の囲碁サロン千葉中央で11稲門会から36名が参加して開催された

昨年までの津田沼囲碁クラブから会場を千葉市に移



した今大会は、12チーム、1チーム3名、3回戦制で熱戦が繰り広げられた。結果は白井稲門会チームが唯一の3連勝の成績であった。準優勝は鎌ヶ谷、佐倉、四街道合同チーム、3位は柏であった。白井チームのメンバーは佐藤孝二、松井喜正、吉弘尚道の3氏、今回の全勝者は佐藤孝二（白井）、堀切善男（柏）、京野周平（八千代）、井澤克彦（佐倉）の4氏で、規定により昇段は佐藤、京野の2名であった。

参加者は第16回47名、17回42名で今回は36名と年々減少。高齢化も進行し、この大会をいつまで継続できるか危ぶまれるが、最大限努力して行きたい。

(市原稲門会 伊東)



2025年12月19日
1. 3号館（椎名）

第 19 回千葉県稲門麻雀交流会 開催報告

2025年9月7日(日)12:30~17:30に、千葉中央駅傍いつものワンダフルデイズ千葉で実施。

熱暑に負けず9稲門会52名が元気に集いました。

今回は鎌ヶ谷稲門会が2チーム8名参加、個人戦ではAチームのメンバーが1位、Bチームのメンバーが2位を占め、そして団体戦でも両チームが1位と2位を制覇。



鎌ヶ谷稲門会、強い！！

また習志野稲門会大村さんが役満（四暗刻）をあがるなど、賑やかな大会でした。

締めは柏稲門会・応援部OB田中さんのリードにより“都の西北”を声高らかに歌い、半年ぶりの交流を終えました。

次回は3月1日(日)を予定し、多くの皆様の参加をお待ちしております。

(千葉県稲門麻雀交流会幹事長
古場田 憲和)

笠森観音の特別視察 ～山武郡市稲門会との交流会～

2025年10月25日山武郡市稲門会、茂原長生稲門会交流会で長南町の笠森観音を視察しました。

山武郡市から6名、茂原長生から11名の17名が参加しました。

笠森観音では普段なかなか聞けないその歴史等について小川長圓住職のお話を直に聞くことができました。

笠森観音は奈良時代に最澄が開基、平安時代に建立され、日本唯一の「四方懸造」、千葉県最初の「国宝」等説明がありました。また笠森観音は富士山を経て出雲大社に通じる「レイライン」（ご来光の道）上にあるという説明にも皆さん熱心に耳を傾けていました。



その後、茂原の竹りんで会食、両稲門会の親睦を深めました。

(茂原長生稲門会 杉谷)

ホームページ記載に関して

- ・掲載記事の内容は、県支部及び大学からの連絡・主催行事、複数稲門会合同で実施するイベント等
- ・原稿は、文字数300~1,000字を目安にWord、Excel等で、また必ず写真を添付してください。
- ・掲載ご希望の方は、事務局長あてにお送りください。

編集後記

今回は千葉県稲門祭を中心に掲載いたしました。

支部たよりの発行までに、瀬古さんの講演の通り、箱根駅伝では惜しかったものの往路2位という好成績をおさめ、将に千葉県出身の選手が活躍しました。

昨秋は、ラグビーの早明戦も観戦しました。「現役時代はこんな来ていたっけ？」というぐらいOB、OGがたくさん来場していました。

私も稲門会を通じてチケットを購入、ゼミの同級生を誘って観戦しました。

更に今後は、小宮山監督のお話のように、アメリカ遠征後の野球部が楽しみです。

卒業後も様々な場面、方法で、これだけ母校を熱く応援できる。これぞ早稲田の強みだなあと感じました。



2025年11月18日
大隈講堂（椎名）

(椎名)